

Classification No. = 2002013001

Pat App 2002-020948

Page: 1 / 1

[Document Name] Patent Application

[Classification No.] 2002013001

[Addressed To] Mr. Kozo Oikawa, Chief Commissioner of Japan Patent Office

[International Paten Classification] A61F 5/37

A61B 17/02

[Inventor]

[Address or Residence] 121-9, Aza Maehata, Oh-Aza Myogazawa, Matsuyama-machi, Atsumi-gun,
Yamagata Pref.

[Name] Nishiki Abe

[Patent Applicant]

[Identification No.] 500541162

[Name or Title] Nishiki Abe

[Agent]

[Identification No.] 100084984

[Patent Attorney]

[Name or Title] Masafumi Sawano

[Elected Agent]

[Identification No.] 100094123

[Patent Attorney]

[Name or Title] Akira Kawajiri

[Indication of Fees]

[Prepayment Register No.] 013572

[Payment Amount] 21,000 yen

[Document Name] Abstract

[Abstract]

[Objective]

To make a phimosis curer self-operated by a true phimosis patient light-weight and compact and at the same time improve it through simple processing to the one which can be mass produced at a low cost.

[Resolution Means]

Legs 3R and 3L which become grips are formed by bending spring elements of the first grade piano wire into a U shape or V shape, the tip sections of the both legs 3R and 3L are bent inward so that they cross with each other, and the parts from the crossed section to the tips are bent in the hook shape so that they stand up parallel to each other to form a pair of blades 4R and 4L for expanding the foreskin opening from within.

[Selected Figure] Figure 1

[Brief Explanation of the Drawings]

[Fig. 1] An oblique view showing an example of the phimosis curer of the present invention.

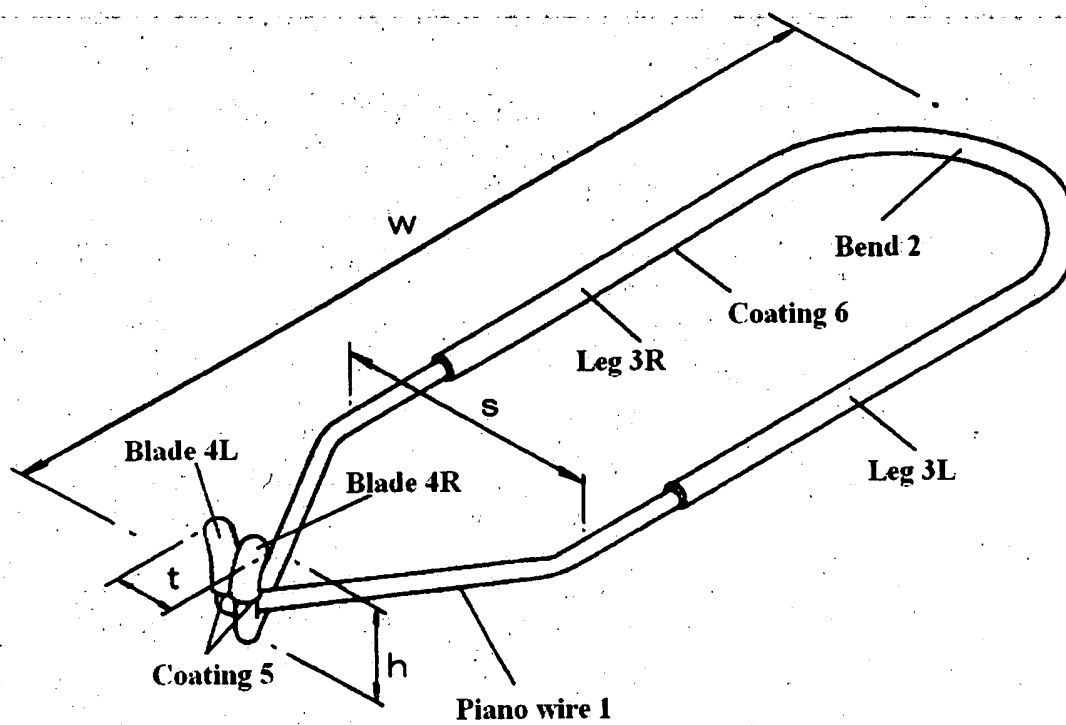
[Fig. 2] An oblique view showing a modification example of the phimosis curer of the present invention.

[Explanation of the Codes]

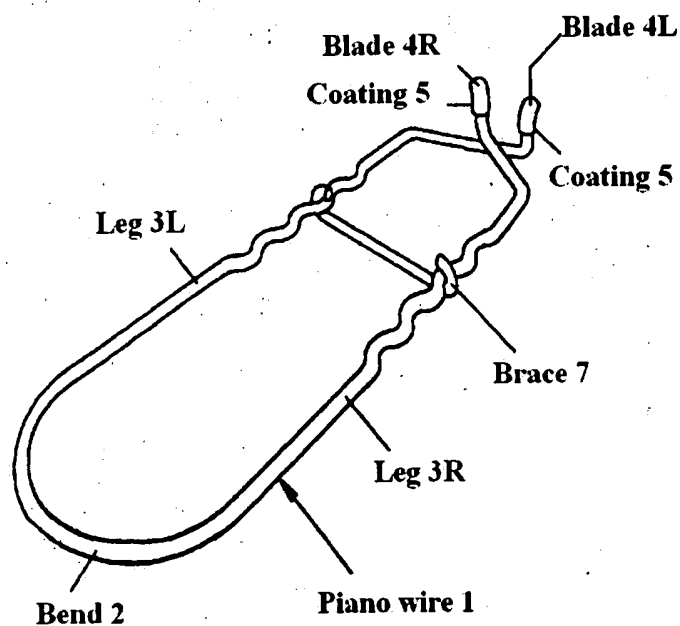
1: Spring element (Piano wire)

[Document Name] Drawings

[Fig. 1]



[Fig. 2]





整理番号＝ 2002013001

提出日 平成14年 1月30日
特願2002-020948 頁: 1/ 1

【書類名】 特許願

【整理番号】 2002013001

【あて先】 特許庁長官 及 川 耕 造 殿

【国際特許分類】 A61F 5/37

A61B 17/02

【発明者】

【住所又は居所】 山形県飽海郡松山町大字茗ヶ沢字前畑121-9

【氏名】 阿 部 錦

【特許出願人】

【識別番号】 500541162

【氏名又は名称】 阿 部 錦

【代理人】

【識別番号】 100084984

【弁理士】

【氏名又は名称】 澤 野 勝 文

【選任した代理人】

【識別番号】 100094123

【弁理士】

【氏名又は名称】 川 尻 明

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013572

【納付金額】 21,000円

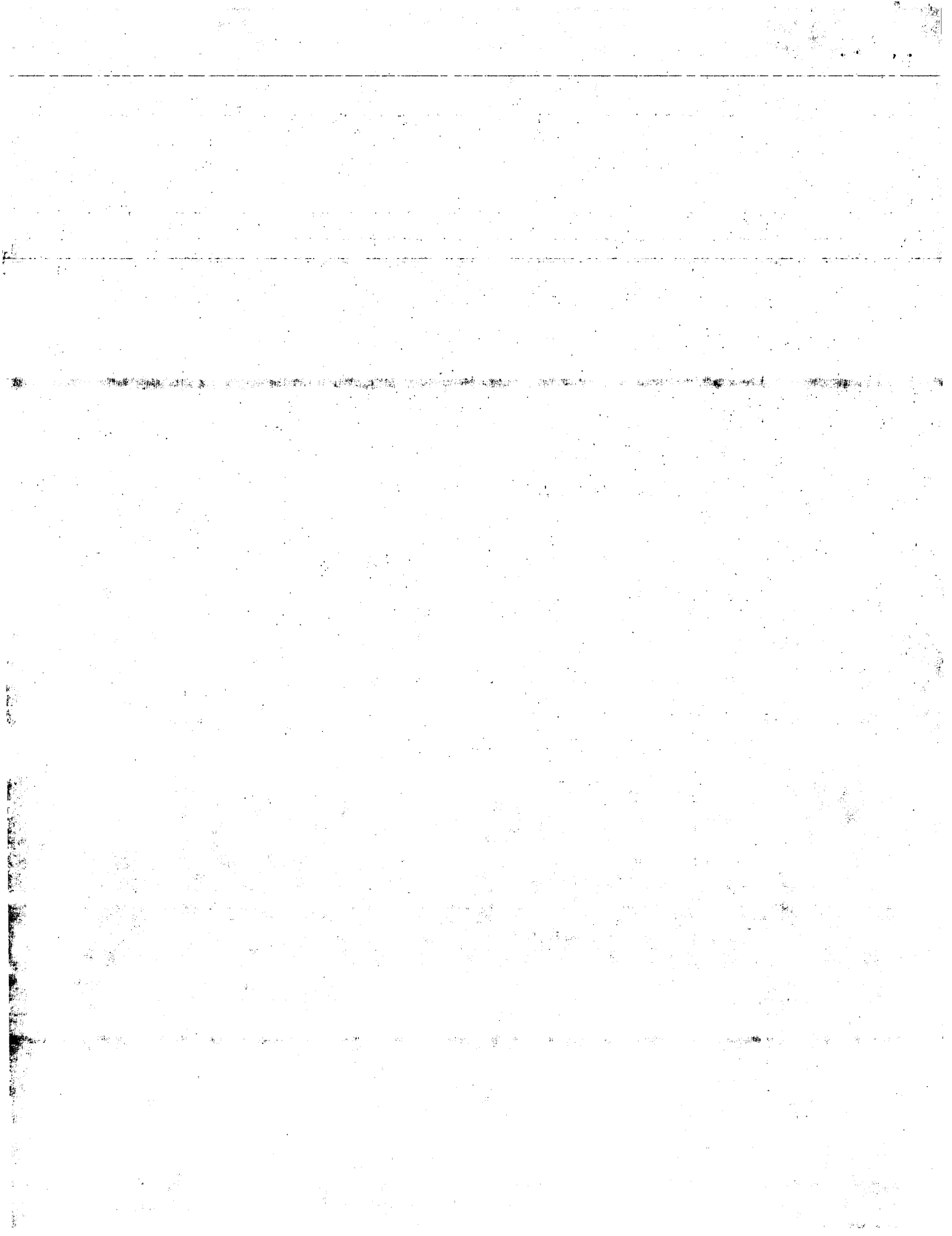
【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要



【書類名】 明細書

【発明の名称】 包茎矯正具

【特許請求の範囲】

【請求項1】 グリップを握り込むと互いに離反する方向に動く一対のブレードを包茎の包皮開口部に挿入してその包皮開口部を内側から押し広げる包茎矯正具において、バネ材（1）を略U字状もしくはV字状に曲げてグリップとなる二本のレッグ（3 R、3 L）が形成され、両レッグ（3 R、3 L）の先端部が、互いに交叉するように曲げられると同時に、その交叉部より先の部分が、互いに並行に起立するように鉤型に曲げられて一対のブレード（4 R、4 L）を形成していることを特徴とする包茎矯正具。

【請求項2】 前記バネ材（1）が直径3～4 mmのピアノ線である請求項1記載の包茎矯正具。

【請求項3】 前記両ブレード（4 R、4 L）が相反方向に反り返った円弧形に成形されている請求項1又は2記載の包茎矯正具。

【請求項4】 前記両ブレード（4 R、4 L）にゴムもしくは軟質プラスチックで成る被覆（5）が設けられている請求項1、2又は3記載の包茎矯正具。

【請求項5】 グリップとなる前記レッグ（3 R、3 L）の部分にゴムもしくは軟質プラスチックで成る被覆（6）が設けられている請求項1、2、3又は4記載の包茎矯正具。

【請求項6】 グリップとなる前記レッグ（3 R、3 L）の部分が波形に成形されている請求項1、2、3、4又は5記載の包茎矯正具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、真性包茎を矯正するために使用する包茎矯正具の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】

ペニス全体が包皮で覆われて、勃起時にも亀頭が全く露出しない真性包茎は、余分な包皮を切除する整形外科手術によって治すことができるが、その手術費が

著しく高額であるうえ、術後の通院費や薬代も嵩み、金銭面での負担が大きいという問題があった。

【０００３】また、包茎の手術に関しては、包皮を短く切りすぎたために勃起時にその包皮が突っ張ったり、包皮の縫合箇所がケロイド状になるなど醜くなったり、あるいは包皮と共に性感帯の一部が切除されたり、性感伝達神経系が傷つけられるなどのリスクを伴うことが報告されている。また、包茎患者の中には、恥ずかしさのために手術を受けることができず、人知れず悩んでいる人も多い。

【０００４】そこで本発明者は、包茎患者が自ら真性包茎を矯正することができる包茎矯正具（実用新案登録第３０７８２５８号公報参照）を製作し、これを患者に試用したところ、毎日午前と午後の２回、それぞれ約３０分間使用することにより、約２～３週間程度で包皮開口部が広がってその開口部から亀頭が完全に露出するようになった。

【０００５】この包茎矯正具は、二本の柄で成るグリップを握り込むと、二つの顎が開いて、両顎の先端に直角に設けた一对のブレードが互いに離反する方向に動くように構成されたペンチ状の器具で、その一对のブレードを真性包茎の包皮開口部に挿入してグリップを握り込むことにより、包皮開口部を内側から押し広げるようになっている。

【０００６】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、ペンチ状の包茎矯正具は、重くて嵩張るので携帯や保管に不便であると同時に、これを量産するには、その主要パーツである柄と顎を一体成形する高価な金型が必要となるので、製造コストが嵩むという問題があった。

【０００７】そこで本発明は、軽量で嵩張らず、安価に製造できる包茎矯正具を提供することを技術的課題としている。

【０００８】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、本発明は、グリップを握り込むと互いに離反する方向に動く一对のブレードを包茎の包皮開口部に挿入してその包皮開口部を内側から押し広げる包茎矯正具において、バネ材を略Ｕ字状もしくはＶ字状に曲げて

グリップとなる二本のレッグが形成され、両レッグの先端部が、互いに交叉するように曲げられると同時に、その交叉部より先の部分が、互いに並行に起立するように鉤型に曲げられて一対のブレードを形成していることを特徴とする。

【0009】本発明の包茎矯正具は、一対のブレードを包茎の包皮開口部に挿入して、グリップとなる二本のレッグを握り込むと、一対のブレードが互いに離反する方向に動いて、包皮開口部が内側から押し広げられる。そして、グリップの握力を解除すると、一対のブレードが、バネの復元力で互いに接近する方向に自動的に戻って、包皮開口部から簡単に抜き出せる状態となる。

【0010】この包茎矯正具は、高価な成形金型を用いることなく、バネ材を曲げる簡易な加工によって量産することができるので、その製造コストが非常に安いと同時に、軽量で嵩張らないので、カバンやバッグ、あるいは洋服のポケットなどに入れて携帯するのに便利である。

【0011】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施形態を図面によって具体的に説明する。

図1は本発明に係る包茎矯正具の一例を示す斜視図、図2はその変形例を示す斜視図である。

【0012】図1の包茎矯正具は、バネ材である直径3～4mmのピアノ線1を略U字状もしくはV字状に曲げて、ベンド2と、グリップとなる二本のレッグ3R、3Lが形成されている。

【0013】そして、レッグ3R、3Lの先端部が、互いに交叉するように内側に曲げられると同時に、その交叉部より先の部分が、互いに並行に起立するように鉤型に曲げられて一対のブレード4R、4Lを形成している。

【0014】ブレード4R、4Lは、レッグ3R、3Lの先端を熱して鍛造用工具等で加圧成形することにより、相反方向に反り返った円弧形に成形されると共に、その表面全体にゴムもしくは軟質プラスチックで成る柔軟な被覆5が設けられている。

【0015】また、ブレード4R、4Lは、真性包茎の包皮開口部に容易に挿脱できるように、ベンド2に生ずるバネ弾性によって互いに密接した状態となるよ

うに付勢されると共に、その密接状態におけるブレード4 R及び4 Lの全体厚 t が10 mm程度に納まる形状及び大きさに成形されている。

【0016】また、ブレード4 R、4 Lの長さ h は、包皮開口部を小さく窄めて亀頭の露出を妨げている固い包皮輪の部分を実際に押し広げられる15 mm程度に選定され、グリップとなるレッグ3 R及び3 L間の間隔 s は、50 mm程度、包茎矯正具の全長 w は、170 mm程度に選定されている。なお、レッグ3 R、3 Lには、夫々グリップとなる部分にゴムもしくは軟質プラスチックで成る柔軟な被覆6が設けられている。

【0017】以上が、図1に示す包茎矯正具の構成であり、次にその作用と使用方法について説明する。

まず、グリップとなるレッグ3 R及び3 Lを片手で掴んで、そのレッグ3 R及び3 Lの先端に形成された一対のブレード4 R及び4 Lを真性包茎の包皮開口部に挿入する。

【0018】次に、手で掴んだレッグ3 R及び3 Lを強く握り込み、そのレッグ3 R及び3 Lの先端に形成されたブレード4 R及び4 Lを互いに離反する方向に動かして、両ブレード4 R及び4 Lで包皮開口部を内側から押し広げる。

【0019】この際、両ブレード4 R及び4 Lは、相反方向に反り返った円弧形に成形されることにより、包皮の先端を成している固い輪ゴムのような包皮輪をそのブレード4 R、4 Lに確りと掛け止めることができるので、位置ずれや包皮開口部からの不如意な抜け出し等が防止されて、包皮輪の部分を実際に押し広げることができる。また、ブレード4 R、4 Lは、柔軟な被覆5が設けられているので包皮や亀頭を傷つけるおそれがない。

【0020】また、グリップとなるレッグ3 R、3 Lは、ピアノ線1の上に柔軟な被覆6が設けられて、その被覆6の厚み分だけ外径が太くなっているため、これを掴んで握り込む手が痛くなるおそれもない。

【0021】次いで、図2の包茎矯正具は、グリップとなるレッグ3 R、3 Lの部分に被覆が設けられていない点と、その部分が波形に成形されている点を除けば、図1の包茎矯正具と略同一の構成を有している。

【0022】図2の包茎矯正具におけるレッグ3 R、3 Lの波形部分は、ブレー

ド４Ｒ、４Ｌを包皮開口部に挿入してレッグ３Ｒ、３Ｌを握り込んだ際に、両レッグ３Ｒ、３Ｌ間に図示の如き両フック形あるいはリング形の留め金具７を掛け止めてその握り込み状態を保持するために形成されたものである。

【００２３】つまり、グリップとなるレッグ３Ｒ、３Ｌを握り込んだ状態で、そのレッグ３Ｒ、３Ｌ間に留め金具７を掛け止めれば、以後握力を解除しても、ブレード４Ｒ及び４Ｌが包皮開口部を押し広げた状態に保持されるので、長時間使用しても、手が痛くなったり、腕がだるくなることがないと同時に、包皮開口部に対して該開口部を内側から押し広げるブレード４Ｒ、４Ｌの圧力を間断なく長時間にわたって継続的に作用させることができるので、包茎の矯正効果も高い。

【００２４】また、レッグ３Ｒ、３Ｌの波形部分に掛け止める留め金具７の位置をその波形部分に沿って前後方向にずらすことによって、包皮開口部にかけるブレード４Ｒ、４Ｌの圧力を加減調節することができる。

【００２５】更に、包皮開口部を押し広げた状態にあるブレード４Ｒ、４Ｌは、レッグ３Ｒ、３Ｌの撓みによって生ずるバネの反発力で包皮開口部を押し広げる方向に付勢されるため、時間の経過に伴って包皮開口部が徐々に広がっても、両ブレード４Ｒ、４Ｌは、その広がりに従って、常時包皮開口部を押し広げる方向に圧力をかけ続けることができる。

【００２６】なお、グリップとなるレッグを形成するバネ材は、ピアノ線のような線棒状のものに限らず、帯板状のものであってもよい。

【００２７】

【発明の効果】

本発明による包茎矯正具は、簡単な加工によって量産することができるので製造コストが安く、また、軽量で嵩張らないので携帯にも便利であるという利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明に係る包茎矯正具の一例を示す斜視図

【図２】本発明に係る包茎矯正具の変形例を示す斜視図

【符号の説明】

１……………バネ材（ピアノ線）

整理番号=2002013001

提出日 平成14年 1月30日
特願2002-020948 頁: 6/ 6

3 R.....レッグ

3 L.....レッグ

4 R.....ブレード

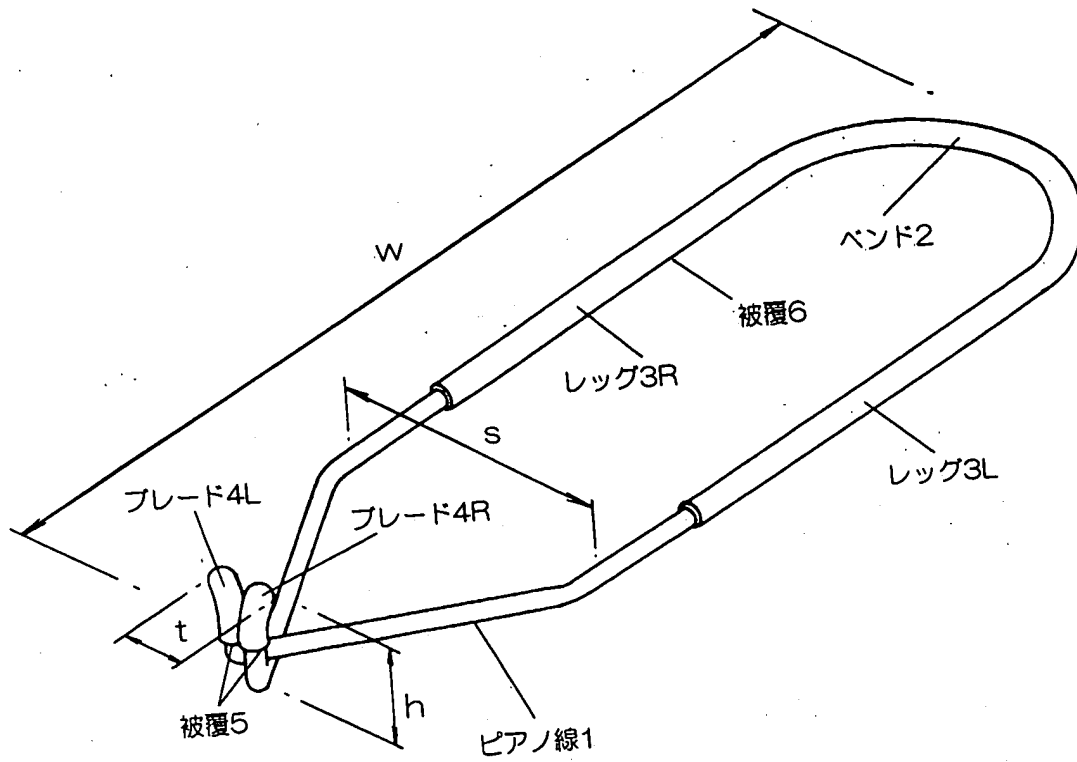
4 L.....ブレード

5.....被覆

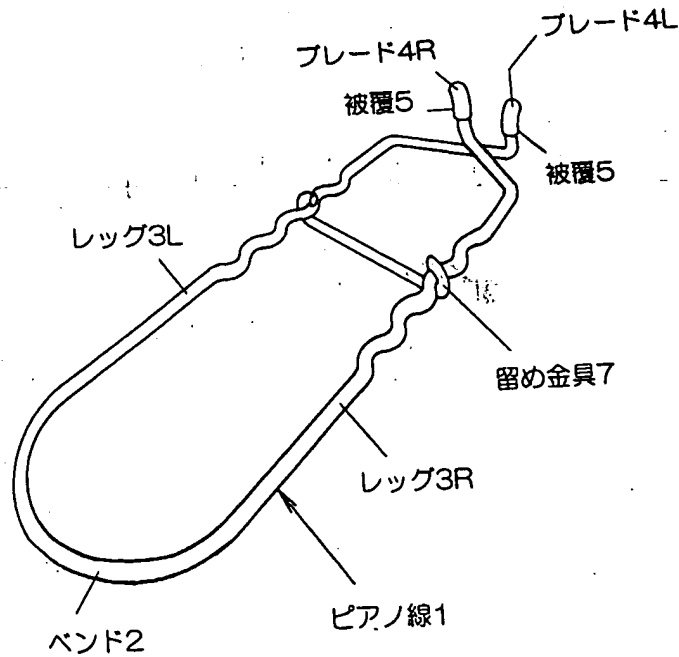
6.....被覆

【書類名】 図面

【図1】



【図2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】包茎患者が自ら使用する包茎矯正具を、軽量で嵩張らないものにすると同時に、簡単な加工によって安価に量産できるものに改良する。

【解決手段】ピアノ線1等のバネ材をU字状もしくはV字状に曲げてグリップとなるレッグ3R、3Lを形成し、両レッグ3R、3Lの先端部を互いに交叉するように内側に曲げると共に、その交叉部より先の部分を互いに並行に起立するように鉤型に曲げて包皮開口部を内側から押し広げる一対のブレード4R、4Lを形成した。

【選択図】 図1